

地球から核兵器をなくそう

3.21 広島で、二十万人の反核集会

核戦争の危機が世界各地で、声高に叫ばれている中、日本でも六月の第二回国連軍縮総会に向けて、二十万人署名など活発な運動の取り組みが行なわれています。

三月二十一日は、広島市の平和公園を中心に、二十万人規模の「反核・平和広島大会」が開かれることになりました。

【解説】

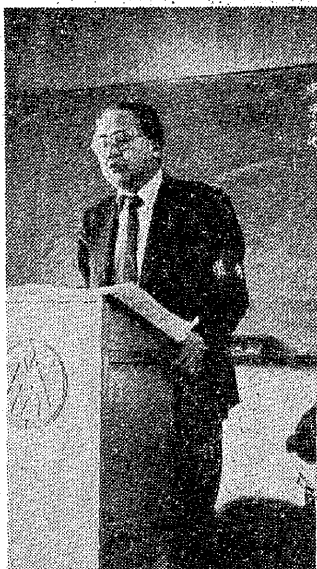
核戦争の新たな脅威が、ヨーロッパを脅かし、アジアにのびるものとなってきた。これまでも核戦争の認識は、米・ソの全面戦争ということであり、上院、文学者や文化人の核戦争の危機を訴える声明など、反核に対する市民運動も活発に展開されておりましたが、このように、核戦争の脅威が、米・ソの間に限らず、ヨーロッパ、アジアにのびるものとなってきた。これまでも核戦争の認識は、米・ソの全面戦争ということであり、上院、文学者や文化人の核戦争の危機を訴える声明など、反核に対する市民運動も活発に展開されておりましたが、このように、核戦争の脅威が、米・ソの間に限らず、ヨーロッパ、アジアにのびるものとなってきた。

春闘をどう闘うか

要求額とともに大衆討議へ

炭労の八二政策春闘の方針を決定する、第九十七回臨時大会は、三月十日から十二日間、東京の国労会館で開かれます。

この討議に先立って、三池の委員会に炭労本部から橋本事務局長を迎えて、議案説明が行なわれました。



説明する橋本事務局長

その骨子は、(1)第七次石炭政策は四月からスタートするが、春闘は「地下産業にふさわしい労働条件」の確立をめざすための第一歩である。(2)賃金要求では、請負給と固定給の別建てとした。(3)夕張新炭鉱の再建問題などですが、いせんとして多発する炭鉱災害、「ゼロ成長以下」の実質賃金の目減りなどを考えると、その重要さがよく指摘されます。

賃金要求では、坑内・外とも一方当たり六百八十円(十パーセント)と定めておられ、固

三池の対策案

昭和五十六年度は、炭鉱労働者八二春闘の賃金要求については、要求額の意志統一で大きな問題を

ヤマの灯を消すな

委員長が三池へ

北炭
タ張



井元委員長



三浦委員長

二月二十日、三池組の委員に北炭労働の井元委員長と、夕張新炭鉱の三浦委員長が出席され、昨年十月のガス突出、それに伴う火災、水没、会社更生法の申請とあいつく苦難の経過について報告され、三池から寄せられた物心両面にわたる支援・激励が述べられました。

千八百人の組合員とその家族、職員・家族を含めると約九千人。関連する人々を含めて三万人(夕張市は四万人強)が街頭に迷うと、市ぐるみの壊滅状態となり、坑内に残されているのは四十二人になりました。

二月二十三日、北炭労働調査委員は、北炭グループや国の支援・協力を前提に「更生手続」の開始が妥当」とする調査報告書を札幌地裁に提出しました。

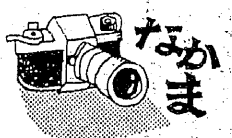
同日、この報告書を中心にした同様の見込みを検討、近日中に判断を下す予定です。

金はいらん 元の体ば返せ

上野証言に怒り

二月二十日午後一時から、十一・九裁判の第四十二回公判が開かれ、会社側証人として、上野幸一が証言した。証言は、症状や苦しみの男三川、証言が証言に立つた。上野証人は、昭和三十七年十月より四十八年六月まで、三池炭業の管理係長をつとめ、CO濃度の現場担当者として、遺族やCO患者の苦しみを一掃しようとして、会社側の尋問が予定されている。CO患者は休んだ方が多いので、治療や回復の努力をサポートする。

二十七分会(港務) 尾田修一さん



昭和十七年、新地の堤防が切れ、水害にあった被災地を父親と一緒に見たとき、人ひとりが大車輪を運んでいく情景が、なぜか印象に残っている。

昭和二十年の大空襲のとき、防空壕から見たら、万田付近が燃えているのが美しかったこと。焼夷弾が近くに落ち、恐怖におののいたこと。終戦後の食糧難時代にカラシンのくき、サクラ菜、コオリギンなどを食す。



新んま 井さく 白奥則 市、雅人 宅、住 宅、大 社の人 3、25 の 目子 4、1、1 小、す。